

平成21年12月28日
水産庁

水産物の市況について(平成21年12月及び平成22年1月)

—東京都中央卸売市場における平成21年12月(平成21年11月21日～12月20日集計)の市況と、
平成22年1月の市況見通し(前月との比較)—

I 平成21年12月の全体の市況

東京都中央卸売市場における総入荷量(水産物の生鮮品、冷凍品、加工品の合計)は前月と比べやや増加となり、卸売価格(水産物全体の1キログラム当たり平均価格)はやや強含みに推移しました。

II 平成22年1月の主要品目の市況見通し

「まいわし(生鮮品)」

入荷量は前月並みと見込まれ、卸売価格は産地での水揚げが減少したため価格がやや強含んだこともあり前月と比べやや強含みに推移すると見込まれます。(全体的に漁獲は低調)

「さけ・ます(塩蔵品・冷凍品)」

入荷量は原料、製品とも前月と比べやや減少すると見込まれるものの、需要期を過ぎたこともあり卸売価格は横ばいに推移すると見込まれます。(新物のチリ銀サケが出始めており540-530円/kgでスタート。本格的な搬入は年明け。)

「さば(生鮮品)」

入荷量は九州西方海域での最漁期が過ぎたこともあり前月と比べるとやや減少すると見込まれるものの、北部太平洋海域(旋網)の魚体が小さくなってきたこともあり、卸売価格は横ばいに推移すると見込まれます。

「するめいか(生鮮品・冷凍品)」

入荷量は前月と比べると減少すると見込まれ、卸売価格はやや強含みに推移すると見込まれます。(船凍船は大和碓周辺から竹島周辺での漁場形成であったが徐々に南下している。太平洋側では三陸沿岸が主漁場になっており、徐々にトロール主体の漁になっている。)

「あじ(生鮮品)」

入荷量は前月と比べやや増加すると見込まれ、卸売価格は需要が弱いこともありやや弱含みに推移すると見込まれます。(主漁場は山陰沿岸、九州西沖周辺)

「まぐろ(冷凍品)」

入荷量は前月と比べると赤身類、脂身類ともに減少すると見込まれるものの、卸売価格は年末の需要期を過ぎたため、横ばいに推移すると見込まれます。

凡例(目安)

増減率	入荷量	卸売価格
0～2%	並み	横ばい
3～10	やや増加(減少)	やや強(弱)含み
11～20	増加(減少)	強(弱)含み
21～51	かなり増加(減少)	かなり強(弱)含み
51～	大幅に増加(減少)	—

東京都中央卸売市場への総入荷量・卸売平均価格(概数)

(単位:千トン、円/kg)

	12月		前月		前々月	
	入荷量	価格	入荷量	価格	入荷量	価格
21年	56	847	52	786	52	748
前年	63	803	56	806	56	774

注1:入荷量及び卸売価格は、それぞれ前月の21日から当月の20日までの暫定数値。

注2:入荷量は生鮮品、冷凍品、加工品の合計。

主要品目の価格

(単位:円/kg、%)

	東京都中央卸売市場卸売価格(概数)			
	12月	前月対比	前年同月対比	平年同月対比
いわし(生鮮品)	316	55	44	45
さけ・ます(平均)	665	100	99	102
(ぎんざけ塩蔵品)	683	100	96	103
(あきさけ塩蔵品)	368	100	72	81
(ときさけ塩蔵品)	840	100	97	98
(べにざけ塩蔵品)	1,000	100	95	100
(さけ類冷凍品)	632	100	105	108
さば(生鮮品)	334	83	64	69
するめいか(平均)	359	105	93	86
(生鮮品)	367	107	89	84
(冷凍品)	330	100	116	99
あじ(生鮮品)	407	81	77	69
まぐろ(冷凍品)	1,304	92	88	91
(めばち冷凍品)	968	100	98	103
(きはだ冷凍品)	724	89	90	111
(くろまぐろ冷凍品)	2,680	77	72	87
(みなみまぐろ冷凍品)	1,758	101	81	78

注1:品目により、市場で主流となる形態が異なることから、市況を把握する指標としてもっとも適当な形態についての価格データを掲載している。

注2:12月の価格は1~20日までの速報値。平年とは平成16年~20年の加重平均値。

注3:さけ類冷凍品は、主として、ぎんざけ、あきさけ、ときさけ、べにざけ、アトランティックサーモンが含まれる。

注4:さけ・ます(平均)は、さけ・ます類全般の塩蔵品及び冷凍品が含まれる。

注5:まぐろ(冷凍品)は、めばち、きはだ、くろまぐろ、みなみまぐろが含まれる。

問い合わせ先:水産庁加工流通課企画調査班
 代表 03-3502-8111
 内線 6617 中谷、小林
 直通 03-3591-5612